

第27回徳島県芸術祭主催行事

第48回 徳島県美術展

■とき■

第1期/1993年11月6日(出)→14日(日)〈ただし11月10日(水)休み〉 第2期/11月16日(火)→21日(日)

■ところ■

徳島県郷土文化会館

■主催■

徳島県美術家協会・徳島新聞社

徳島県芸術祭執行委員会

第1期 書道

(11月6日(出)→9日(火)前期 11日(木)→14日(日)後期)

第2期 日本画

洋画

写真

彫刻

美術工芸

デザイン

第48回

〈平成5年〉

徳島県美術展

作品集

日本 画
洋画 真刻
写彫 美術工芸
美書 デザイン

主催

徳島県芸術祭執行委員会

徳島県美術家協会・徳島新聞社

後援

NHK徳島放送局・四国放送・徳島県文化協会

審査員

(敬称略)

①住所 ②所属団体・役職名 ③経歴・受賞歴など。



【日本画】 田淵 俊夫

①千葉市緑区大椎町あすみが丘2-34-7②日本美術院同人 東京芸術大学助教授③山種美術館賞展優秀賞受賞、前田青郵賞受賞、日本美術院賞受賞、院展文部大臣賞受賞。



【書道】 安原 阜雲

①奈良市富雄元町4-12-19②日本書芸院顧問③日展評議員、読売書法展総務、鯉水会主宰。



【洋画】 大沼 映夫

①東京都新宿区中井2-25-10②国画会会務員 東京芸術大学教授③大橋賞、国画賞受賞、第1回福島賞受賞、みづゑ準賞受賞、第36回国展会友優作賞受賞、国画会会員となる。「オステンド・ヨーロッパ賞展」銅メダル賞受賞、第8回東郷青児美術館賞受賞。



【書道】 池田 桂鳳

①京都市西京区桂野里町5-15②水穂会理事会 日本書芸院常務理事③日展特選(昭和51、57年)受賞、日展審査員(平成元年)。



【写真】 杵島 隆

①東京都新宿区富久町2-7②日本広告写真家協会名誉会員 国画会会員 日本写真協会会員 日本写真家協会会員③朝日広告賞、富士最優秀作家賞、毎日広告写真賞、ライフ広告賞、日本写真協会年度賞ほか、作品集「蘭」「義経千本桜」「蘭・百花譜」「四季・新宿御苑」「桜の四季」ほか。



【書道】 金子 卓義

①東京都豊島区目白3-12-13②日展会員(社)創玄書道会常務理事 創毎日書道会評議員③日展特選2回、毎日書道展準大賞、創玄展会長賞。



【彫刻】 建 畠 覚 造

①東京都豊島区巣鴨3-14-29②行動美術協会会員③文展特選、直士会賞、野間賞、国立近代美術館賞、高村光太郎賞、中原悌二郎賞、長野市野外彫刻賞、和歌山県文化賞、ヘンリー・ムーア大賞展特別優秀賞、芸術選奨文部大臣賞。



【デザイン】 五十嵐 威 暢

①東京都港区南青山6-6-22②株式会社イガラスステュディオ代表取締役社長③公共サイン部門最優秀作品賞、外務大臣表彰、第4回CSデザイン賞金賞・銅賞、第5回CSデザイン賞銀賞、全国カレンダー展特別部門賞、第2回勝見勝賞、IFデザイン賞ほか。個展、出展、CI計画、サイン、カレンダー、トロフィー、彫刻、POSTER 国内外に活躍。多くの作品を手がける。



【美術工芸】 大西 長 利

①千葉県我孫子市船戸1-6-9②世界漆文化会議議長③東京芸術大学美術学部漆学教授。

審査員総評



〈日本画〉

審査員 田淵俊夫
(日本美術院同人)

全般的にとってもいいものを持っているという印象で、水準は高い。素直に描けているかどうか、自分の気持ちを大切にしているかどうか、を審査の基調として選んだ。

絵は作るものだが、何も格別な構図があったり、技術が要求されるものではない。何でも絵になるし、自分が感じたもの、思ったことを作りごとでなく素直に描いていけば、技術は付いてくるものだ。

県知事賞の反田卓「回帰」は、太陽の沈むほんの一瞬をとらえ、残照と人家の灯が好対象をなしている。人物を描いた訳で

はないが、そこに大自然の営みと、人々の生活の風景が描かれており、力強い作品で大変好感をもった。

特選の土井洋子「花過ぎ」は、花びらが散っていて、行楽の後なのか。当たり前の光景をよく絵にしていると思った。この作品も人物が描かれている訳ではないが、人間が生き生きと描かれているような、技術を越えた訴えがある。

準特選の高田愛子「黄昏の小屋から」は、収穫の喜びが伝わってくる。人々の息遣いが感じられ、温かく、うれしくなる作品だ。北島節子「商店街」は、かつてのきれいな日本画のイメージでなく、商店街を見た作者の感情が素直に表れ、絵に生活感があふれている。佐藤晴子「園生」は、動きもあって鳥の声が聞こえてきそうな、元気に騒いでいるような作品だ。それぞれ技術的にも優れており、今後も自分の感じたものを大切にしてほしい。



〈洋画〉

審査員 大沼映夫
(東京芸術大学美術学部教授)

はしにも棒にもかからないような作品がなく、入選を絞り込むのが困難だった。全般的にいえるのは、絵画は心だけにとらわれると感性に流される。しかし、観念をプラスすれば見る者に訴えかけるものが生じる。突っ走ろうとする感性にブレーキをかける観念。考える絵について一考してもらえればと思う。

日本人は暗い絵画を好むと言われる。しかし、からんとして何もない現代感覚もいい。生きることは非常に厳しいことではあるが、その中にユーモアを失ってはならない。入賞作品には、そのユーモアと現実の接点の追求がうまく取り込めていた。

県議会議員賞の木村健「サナトリウム」は、点描の大作。大抵の点描作品は時間を掛けるほど、イメージが萎（な）えてしまうものだが、最初の制作意図が見事に貫かれている。オレンジを主体にした明色と黒色との間のグレーが的確に置かれているのが目を引く。明暗色のコントラストを扱った場合画面が堅くなりがちだが、グレーでうまく緩和されている。

特選の平木美鶴「FLOWER」は、現代社会に生きる現代人のあっけらかんとした感じが表現されている。また、画面をレリーフ状にしたことによって、この木枠の影が奥行きと画面の緩和の効果を上げている。

近藤万紀子「又三郎が往く」は、地に綿布を用いたことで水性絵の具が染み出していて、そのフジーな部分が見るものに意味合いを考えさせる。絵にならない風や空気をとらえるのに良かった素材の勝利といえる。

審査員総評



〈写真〉

審査員 杵島 隆
(写真家・勲四等瑞宝章受章)

審査して全体的な傾向として感じたことは、単写真より組写真に熱が入っているな、という点だった。最近の写真は大別してドキュメンタリーなものや抽象的、心象作品の流れになっている。しかし抽象的な作品は、まだまだ表現技術が未熟なように思われる。

また作品にはよし悪しに限らず社会が反映される。今夏の異常気象を物語るように、例えばモノクロ作品の焼き具合に迷いが感じられるなど、作品も微妙に影響されたようだ。助言としては撮影時の気分を持続した状態で作品をセレクトする一方、

別の見方でセレクトすることも勧めたい。

県教育長賞の増田寿「動態」(二枚組)は、泥んこ祭りといえばモノクロ作品でおなじみだが、この二枚に絞り込んだ確かな目を評価したい。絵画的な仕上がりで、特に重なって倒れ込む二人のうち、右側の男性の恍惚(こうこつ)とした表情が素晴らしい。

特選の岩崎英昭「踊る手」は、ポスターにしても良いほど(失礼?)で、単に踊りの写真ではなくなっている。しなやかな手の動きは、まるで魚の群れが泳いでいるようだ。

高田爲一の「分校」(三枚組)は、むしろ記念写真風に撮ったところが成功したと思う。心の中にある追憶をも呼び起こす作品。

坂東進の「巡礼の旅」は、老夫婦だろうか、二人が寄り添って歩く姿をとらえているが、画面からはヒューマンイズムがあふれている。温かい目で被写体をとらえた作者の感情もいい。



〈彫刻〉

審査員 建 畠 覚 造
(行動美術協会員)

今回、審査して全般に受けた印象は、具象作品より抽象によいものが多かった。彫刻の場合、具象・抽象に限らず自然観察をしつつ、何かを引き出そうとする姿勢が、まず大切である。勝手に変えると作品自体に魅力はなくなるが、選にもれた中には自分の観念だけで作り上げたものがあったような気がした。

そうした中で、入選とした具象は素直な観察で何かをくみ取ろうとしていた。一方、抽象のレベルは高く、現代感覚も巧みに取り入れているなどと思った。

特別賞の寺井恭子「翔」は、実体と空間とのかかわり合いを積極的にとらえている。モニュメンタルな意味合いも強く感じられ、もし巨大な作品にした場合を考えると、この空洞部分を人間が通り抜ける姿が想像できる。こうしたスペース感覚も大切であり、全体にダイナミックな動きも感じられる。

準特選の居上真人「すてきな三人組」は、石の中に夢やイメージを植え付けるのは難しいけれど、それらがはっきり見受けられる。作者は動物と石とのかかわりを追求しているのだろうか、ユーモラスな感覚もあふれており、質の高い作品に仕上がっている。

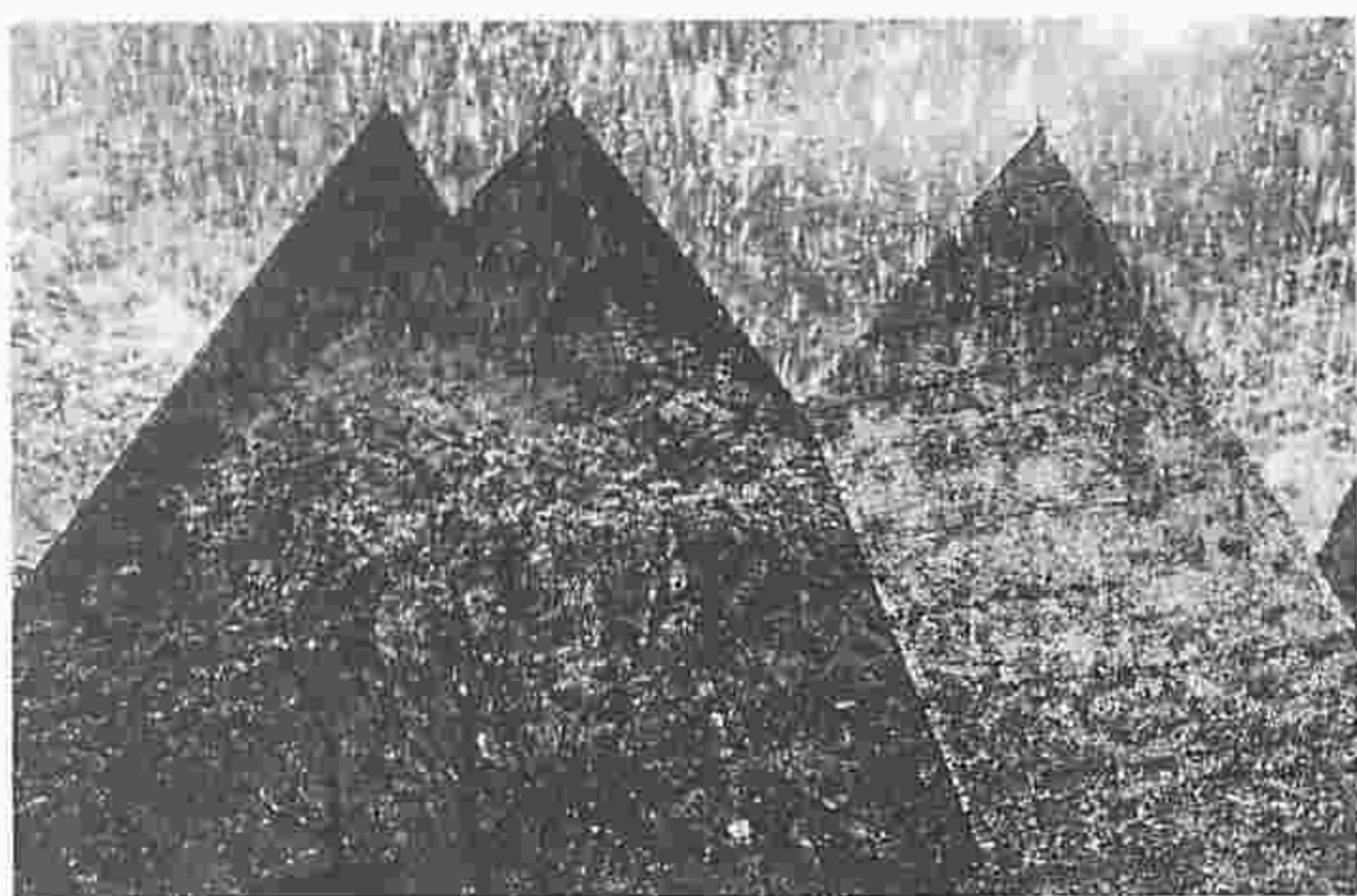
下藤博之の「若者」は、高校生ということであるが、特に観察が素直な点を評価したい。これだけの大作で彫刻としての要素もしっかり組み込まれている。

入選とした中にはテクニク的に良い作品があったものの「手技」が目立ち過ぎたのが残念だった。

写真



特別出品 雲 福島 正仁



招待 '93冷夏 井上 光雄



招待 街 上野 照文



招待 黄昏の丘 荒井 賢治



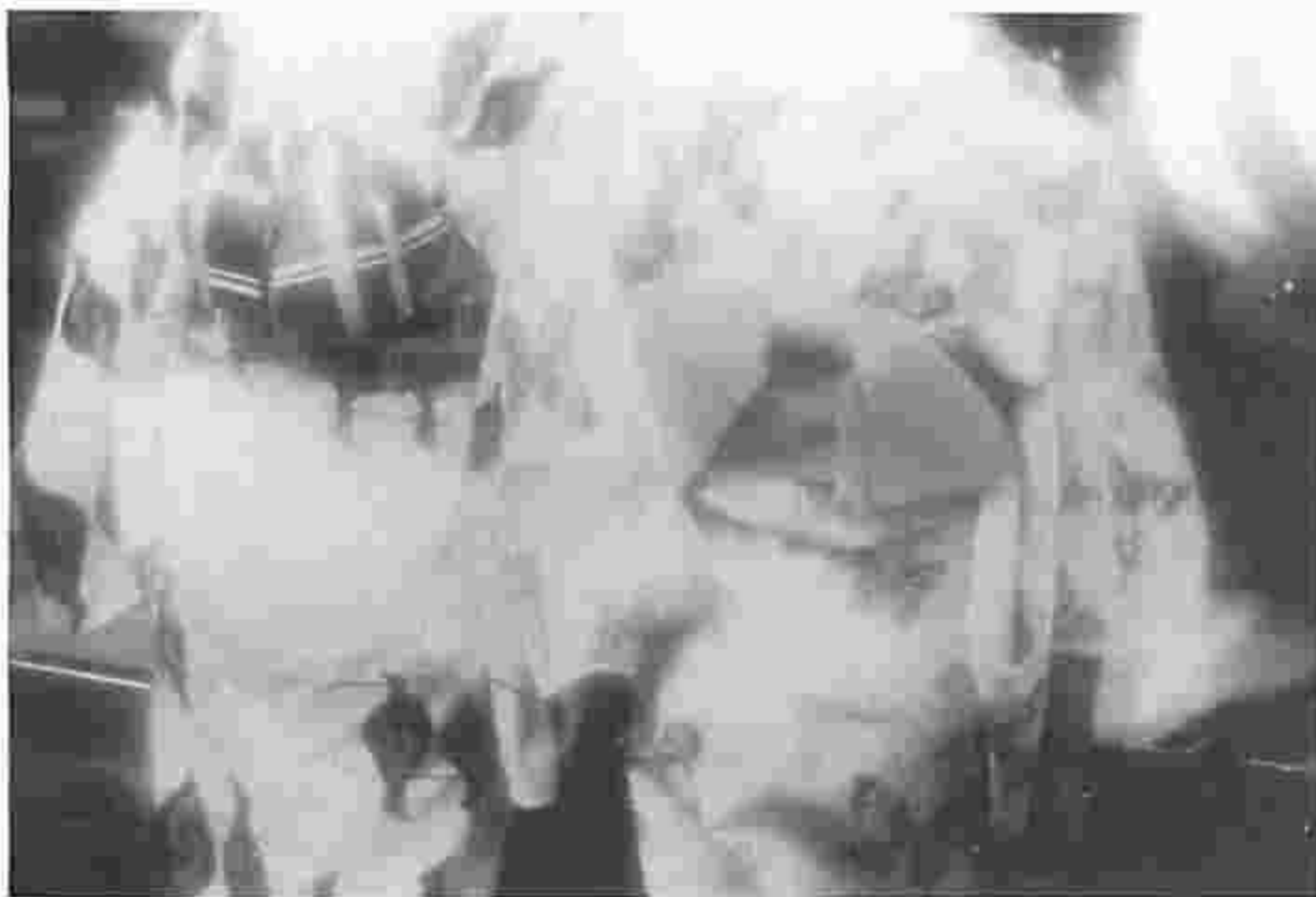
招待
千秋閣庭園（旧徳島城表御殿）
武内 亨



招待 風 林 敏彦



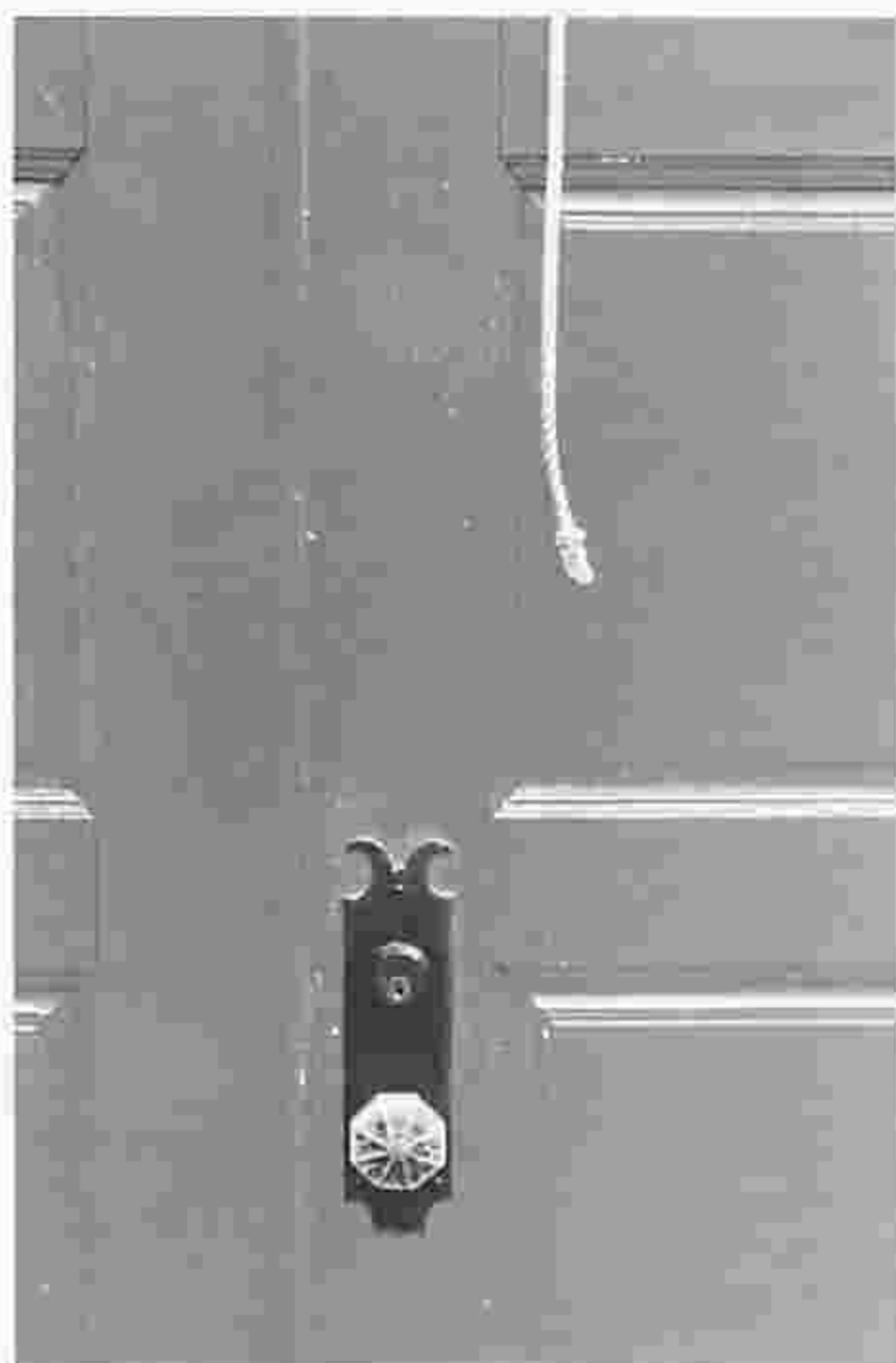
招待 アフタヌーン 安長 剛



招待 宵山有情 勝西 雅夫



招待 屋久島の森 三好 和義



招待
コンポジション
櫛淵
魏



招待 残照 西條 征二



招待
滝
増田
清次



招待 無縁の墓地の昼下がり 藤井 梵



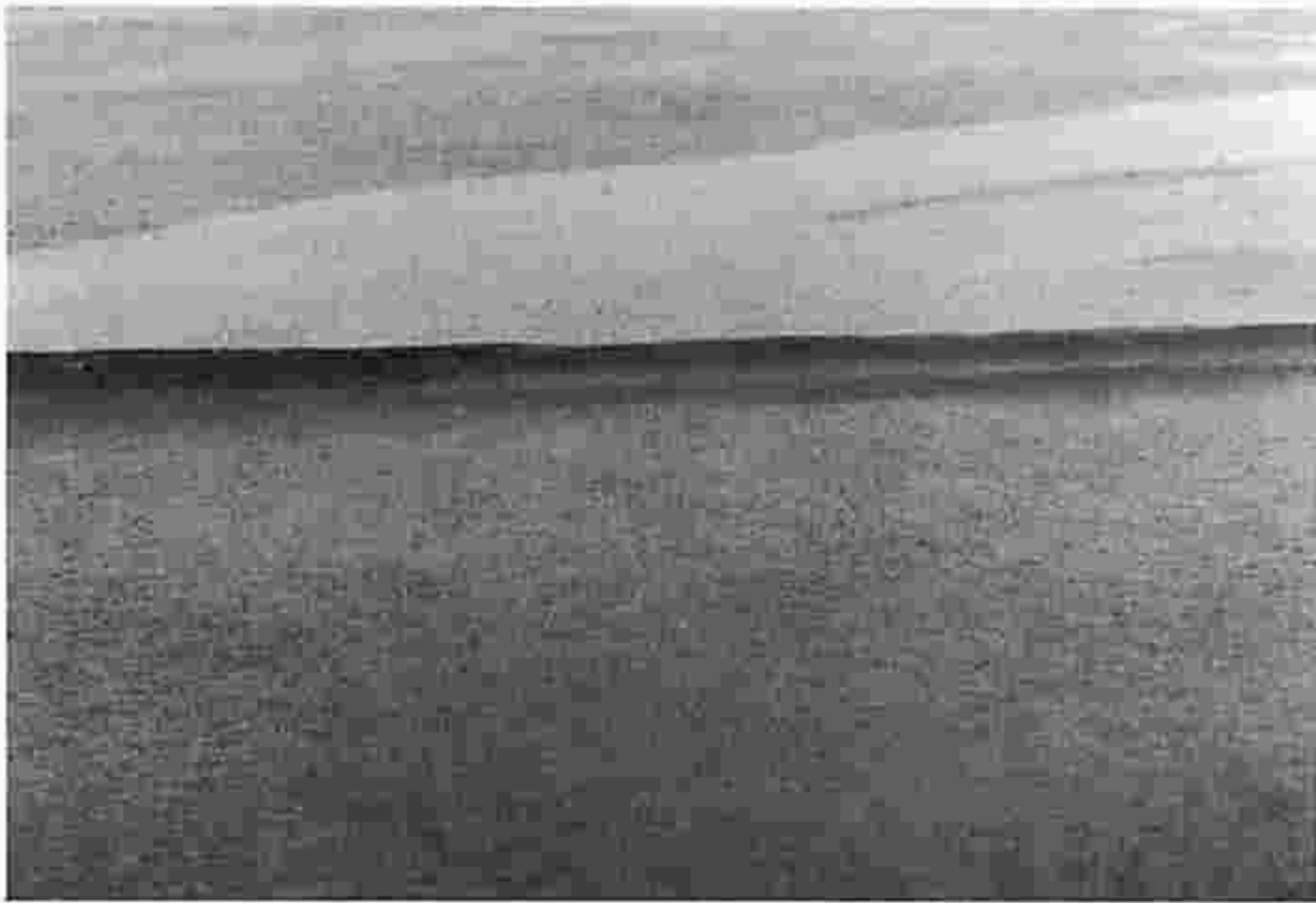
招待 風景 笹田 敏雄



招待 ブルーライン 森 賢一



招待 モトクロス 前浦 芳久



招待 雨降る渚 酒井 博司



招待 静かな刻 橋本 圭祐



招待 ウラジオストックの母と子 木田 英之



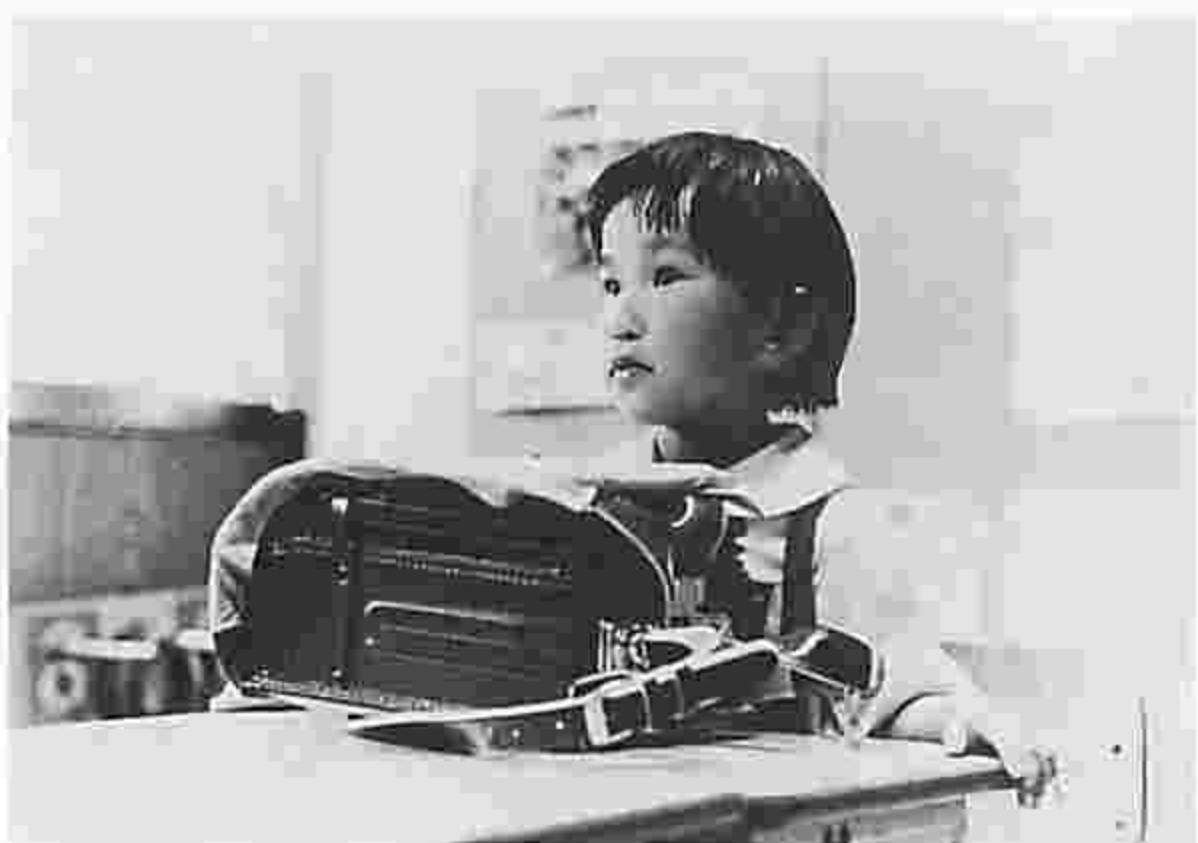
無鑑査 裸婦 中野 建吉



特選・県教育長賞 動態(2枚組) 増田 寿



特選 踊る手 岩崎 英昭



特選 分校(三枚組) 高田 爲一



特選 巡礼の旅 坂東 進



準特選 水溜 船越 正文



準特選 熱闘(三枚組) 関口つとむ



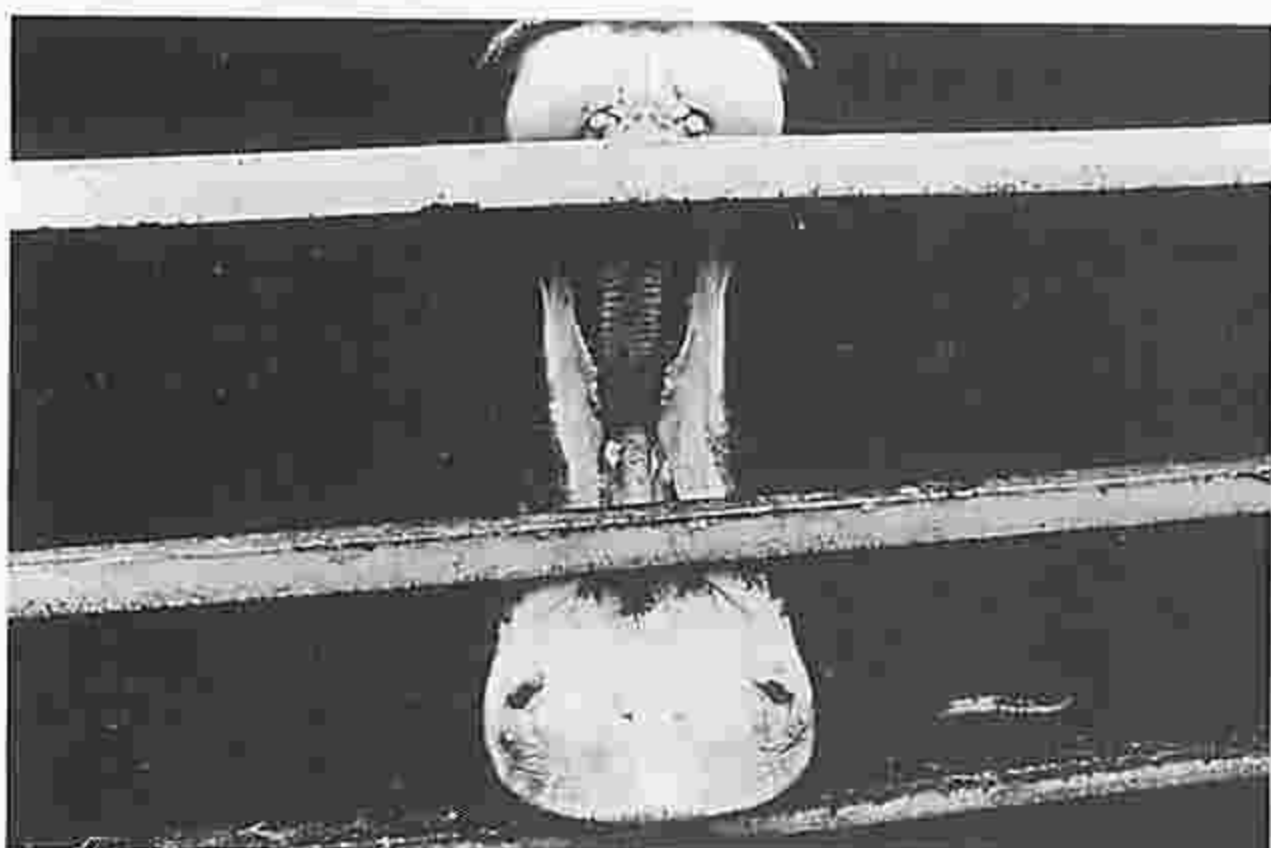
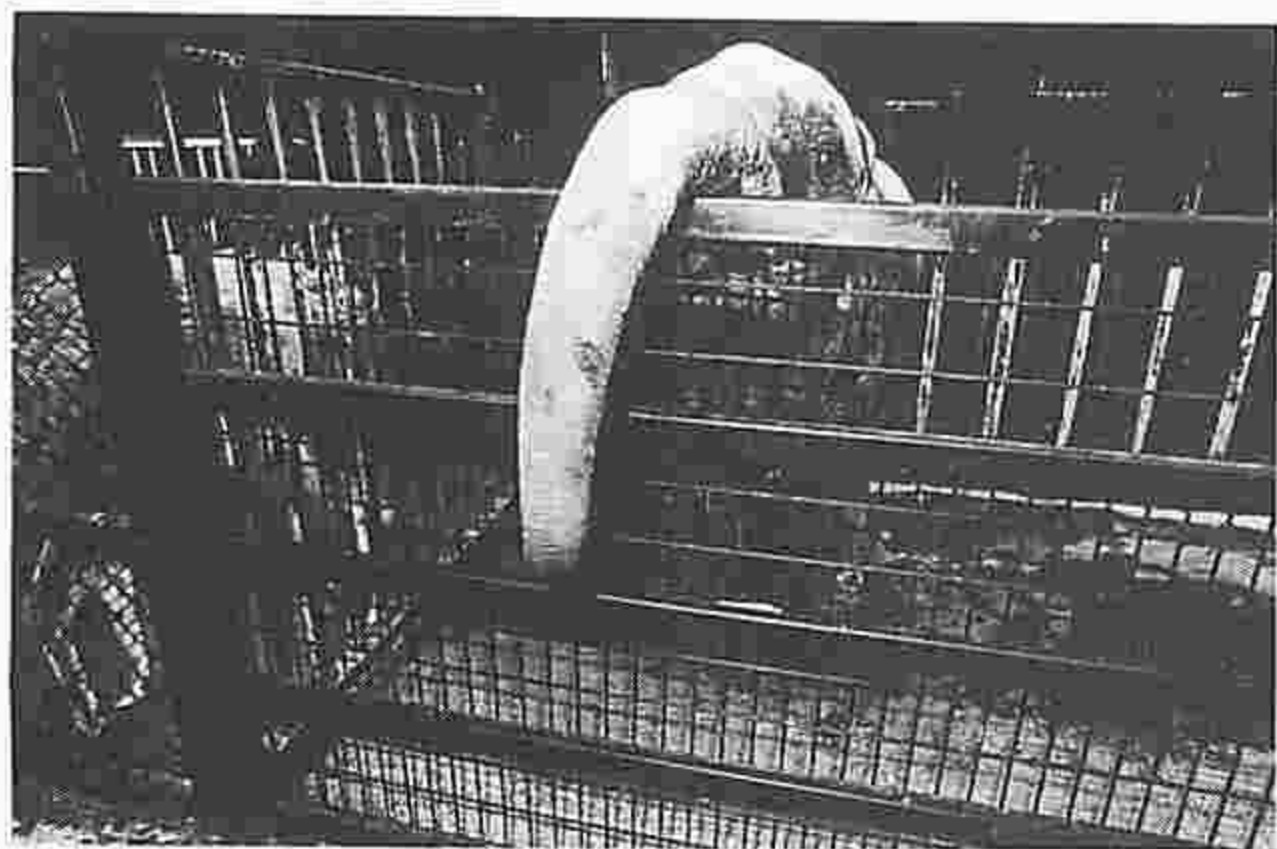
準特選

夏(二枚組)

大和 健司



準特選 午後の病室 武地 雅



準特選 檻(二枚組) 井藤 光章

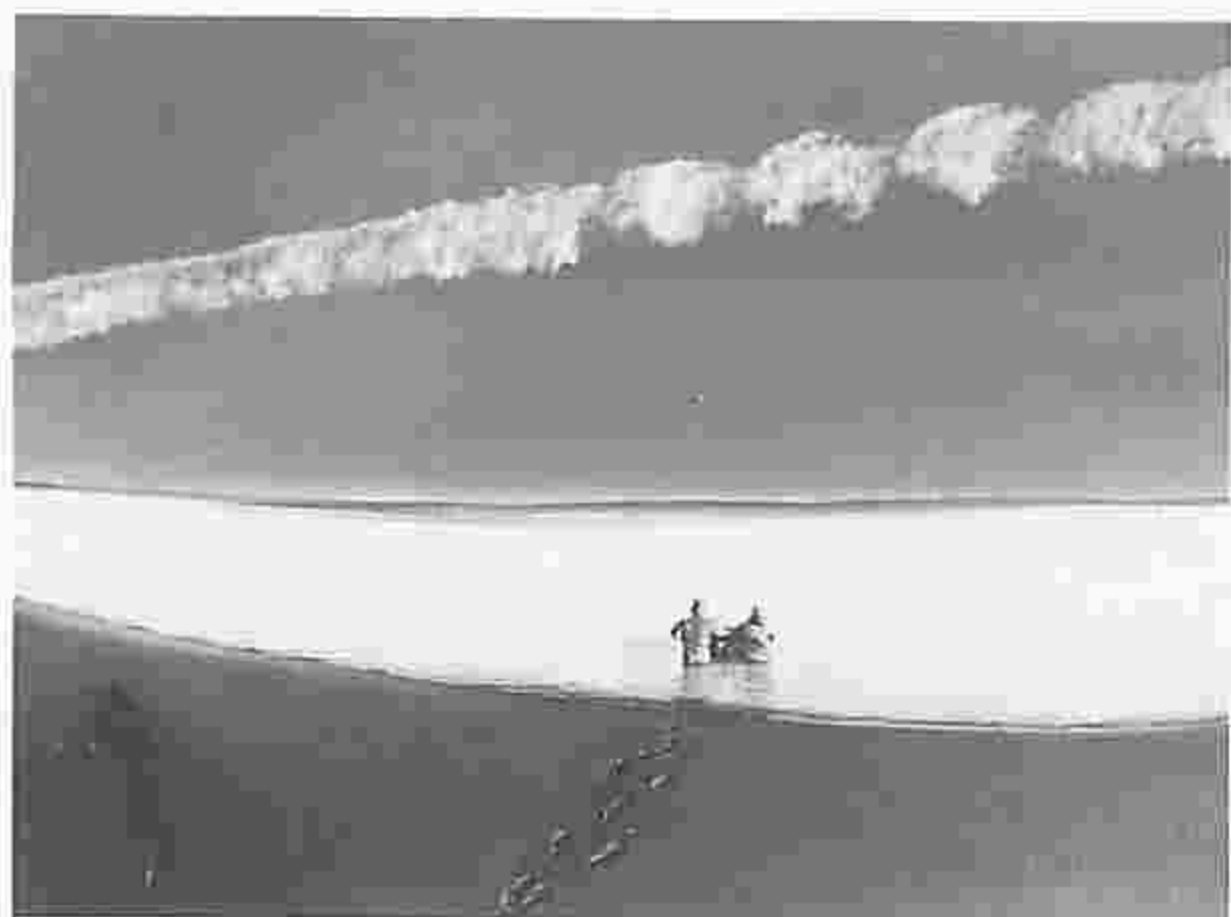
準特選

「奔馬」

瀬尾 秀樹



準特選 夏の日 柳本 正



準特選 渚のメモリー 多田 晴美

第48回県美術展出品・入選等状況

部門									
区分		日本画	洋画	写真	彫刻	美術工芸	書道	デザイン	計
出品数		68	302	926	28	171	1,169	126	2,790
人数		62	214	202	25	118	784	99	1,504
入選	率	60.3%	36.4%	22.9%	60.7%	57.9%	50.1%	57.9%	40.8%
	特別賞	1	1	1	1	1	1	1	7
	特選	2	3	4	1	2	6	2	20
	準特選	3	5	8	2	3	13	3	37
	入選	36	102	200	14	94	567	68	1,081
	計	41	110	212	17	99	586	73	1,138
落選	率	39.7%	63.6%	77.1%	39.3%	42.1%	49.9%	42.1%	59.2%
	落選	27	192	714	11	72	583	53	1,652
招待等	招待	9	8	18	5	8	37	2	89
	無鑑査			1		1	2		4
	特別出品		2	1	1	1	4		9
	賛助作品	5	13		1	2	1	1	23
	計	14	23	20	7	12	44	3	123
展示数		55	133	232	24	111	630	76	1,261